



安否を蒙せ此の書を
おもて下り至る所を
是一憐不が乞ふ所を
併合多く御用事に勤め
身故者有りまし
とおもふ事也あつた
前より事正所を差し
方固、某等は既に
多く生又只仕歌此
處其處居り上口飲
字能く角の限物も
諸事一々而有と石注
候事薄以御事多所及
わざをねまう無後
事以當事不候事
只叶持病久病の間
切内承取御事
名を名手ワ即ち
石ノ内承取御事
あり之以示門内
家に來て候事
わざ御事多く有
石の内再び石内

十月廿日

右原信



新井白城 名ハ祐登、字ハ謙吉、白城ト号ス

又黄州龍山古易館等ノ号アリ、通称織部
後白城ト云、通称ト人儒學ニ邃ク甲年、後好ミ
テ和歌ヲ詠じ、傍ラ我邦ノ典故ヲ修ム
寛政四年五月酉日歿ス、歲七十八

版部南郭 名ハ元高、字ハ子遷、右衛門ト
稱ス、南郭又其署ト号ス、年ウツ柳江音保ニ仕、
後物徂徠ノ門に入リ、專ラ吉文詩ヲ修ム、又好
ニテ和歌ヲ詠じ、傍ラ我邦ノ典故ヲ修ム
宝曆九年六月三十日歿ス、歲七十

高芙蓉谷 名ハ孟彪、字ハ孺友、芙蓉谷ハ其
号又中昇岳畫史ト号ス、通稱ハ大島逸記、
又近藤喬官ト云フ、甲斐人、京師ニ遊、字シ廣、
ク時流ニ交ル、又篆刻ヲ以テ一時ニ擅し、是ヨリ
先御笠草洲、池永道雲、細井廣澤等篆刻ニ
名アリ、ト雖モ、唯明人、一班ヲ観ニ過ギ、ト芙蓉
谷出ツルニ及ヒテ古今印章ノ制度ヲ商確シ遂
ニ奏漢ノ開淳ニ遡リ、流派ヲ探汲レテ、餘蘊ナシ
本刊、草字、一枝是ニ至リテ、大ニ備ハル、皆川澤園
柴栗山布シテ、印聖ト云ノ又萬葉坊門氏、從ニテ
朝儀典故ノ說ヲ受ケテ、以テ有職政実ノ奥底ニ
通曉ス、傍ラ韻發射御ノ板ニ及ハシ
侯ニ仕ヘテ、僞夏トナリ、家ヲ起テ、江都ニ居リ
不幸暴ニ傷寒ニテ病ニテ歿ス、時天明四年四月
三日、歲六十乙

木村巽齋 名ハ孔恭、字ハ世甫、通稱壹升
屋太吉又吉石衛門ト云フ、良華人、博學多藝、
書畫ヲ能クシ詩ニ長じ、又物産ノ字ニ精シ、四方交
事、士、文人諸子ト交リ、詩名一時ニ高シ、中开竹山
萬盡し文序、且ツシ萬葉ヲテ以テ著トス
享和二年歿ス、歲六十七

釋萬庵、名ハ厚資、芙蓉谷ト号ス、江ヶ東禪寺
僧仰ニテ聘教詩アリ、人目ニテヤ文殊ト云フ
物徂徠ノ人諸子ト交リ、詩名一時ニ高シ、中开竹山
曰ク我邦先輩詩ヲ作ル人ラ宮高ニ置カミハ、惟新
开白元、僧萬庵ハトト

江馬蘭舟 美濃人、細香女史ノ父アリ、医ラ
葉トシ體山陽ト深文アリ

